

六ヶ所再処理工場に係る定期報告書
(平成18年4月報告)

1. 再処理工場の運転保守状況

(1) 使用済燃料受入れ量、再処理量及び在庫量並びに製品の生産量(実績)

(平成18年4月分)

(使用済燃料)

		受入れ量		再処理量		在庫量(月末)	
		体数	ウラン量(トンU)	体数	ウラン量(トンU)	体数	ウラン量(トンU)
PWR 燃料	当月	0	0	8	約4	1,586	約676
	累計	1,594	約680	8	約4		
BWR 燃料	当月	266	約47	0	0	6,306	約1,096
	累計	6,306	約1,096	0	0		
合計	当月	266	約47	8	約4	7,892	約1,772
	累計	7,900	約1,776	8	約4		

(製品)

	生産量	
	ウラン製品	プルトニウム製品
当月	0 トンU	0 kg
累計	0 トンU	0 kg

(注1) 使用済燃料のウラン量は、照射前金属ウラン質量換算とする。

(注2) ウラン製品量は、ウラン酸化物製品の金属ウランの質量換算とする。なお、ウラン試験に用いた金属ウラン(51.7tU)は、ウラン製品には含めていない。

(注3) プルトニウム製品量は、ウラン・プルトニウム混合酸化物の金属ウラン及び金属プルトニウムの合計質量換算とする。

(2) 主要な保守状況 (平成 18 年 4 月分)

施設定期自主検査 (年次検査)

特になし

(3) 放射線業務従事者の被ばく状況 (平成 18 年度第 四半期分)

	放射線業務従事者数 (人)	線量 (mSv) 区分別放射線業務従事者数 (人)					
		5 以下 (注 1)	5 を超え 15 以下	15 を超え 20 以下	20 を超え 25 以下	25 を超え 50 以下	50 を超えるもの
当該四半期							
年度							

(注 1) 被ばく線量が検出限界未満の放射線業務従事者を含む

(注 2) 四半期毎の報告月に限り記載する。(年度計については、第 4 四半期に限り記載する。)

(4) 女子の放射線業務従事者の被ばく状況 (平成 18 年度第 四半期分)

放射線業務従事者数 (人)	3 月間の線量 (mSv) 区分別放射線業務従事者数 (人)			
	1 以下 (注 1)	1 を超え 2 以下	2 を超え 5 以下	5 を超えるもの

(注 1) 被ばく線量が検出限界未満の放射線業務従事者を含む

(注 2) 妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を書面で申し出た者を除く

(注 3) 四半期毎の報告月に限り記載する。

(5) アクティブ試験実施状況 (平成 1 8 年 4 月分)

建屋	設備	試験の実施状況	進捗率 (%)
前処理建屋	燃料供給設備、せん断設備、溶解設備、清澄・計量設備	せん断・溶解運転性能確認試験、清澄・計量設備運転性能確認試験	5 (平成18年3月31日より開始)
分離建屋	分離設備、分配設備、酸回収設備、溶媒回収設備、高レベル廃液処理設備	分離・分配性能確認試験、核燃料物質移行量確認試験、溶媒再生性能確認試験、高レベル廃液濃縮設備運転性能確認試験、酸回収性能確認試験	10 (平成18年4月16日より開始)
精製建屋	ウラン精製設備、プルトニウム精製設備、酸回収設備、溶媒回収設備	ウラン精製性能確認試験、プルトニウム精製性能確認試験、核燃料物質の移行量確認試験、溶媒処理性能確認試験	8 (平成18年4月18日より開始)
低レベル廃液処理建屋	低レベル廃液処理設備	処理能力確認試験	10 (平成18年4月11日より開始)
使用済燃料受入れ・貯蔵建屋	低レベル固体廃棄物処理設備	処理能力確認試験	50 (平成18年3月31日より開始)
その他 (再処理施設全体として行うもの)		線量当量率及び空気中の放射性物質濃度確認試験	6 (平成18年3月31日より開始)
総合進捗率			4

注記

前処理建屋

せん断・溶解運転性能確認 : 使用済燃料を用いて、せん断機及び溶解槽の機能やせん断、溶解時のクリプトン放出量等を確認する。

清澄・計量設備運転性能確認試験

: 使用済燃料の溶解液を用いて、清澄設備での不溶性残渣の除去性能や計量設備での溶解液均一化を確認する。

分離建屋

分離・分配性能確認試験

: 使用済燃料の溶解液を用いて、ウラン及びプルトニウムの分配性能及び核分裂生成物の除染性能等を確認する。

核燃料物質の移行量確認試験

: 廃液、溶媒中への核燃料物質の移行量を確認する。

酸回収性能確認試験

: 使用済み硝酸を用いて、蒸発缶の酸回収性能を確認する。

溶媒再生性能確認試験

: 使用済み溶媒を用いて、再生した溶媒の性状等により溶媒再生性能を確認する。

高レベル廃液濃縮設備運転性能確認試験

: 抽出廃液等を用いて、濃縮運転性能を確認する。

精製建屋

ウラン精製性能確認試験

: ウラン溶液を用いて、各核種の除染効率等を確認する。

プルトニウム精製性能確認試験

: プルトニウム溶液を用いて、プルトニウム精製設備におけるパルスカラム、ミキサセトラの性能等を確認する。

- 核燃料物質の移行量確認試験 : ウラン溶液及びプルトニウム溶液を用いて、廃液、溶媒中への核燃料物質の移行量を確認する。
- 溶媒再生性能確認試験 : 使用済み溶媒を用いて、再生した溶媒の性状等により溶媒再生性能を確認する。
- 低レベル廃液処理建屋
処理能力確認試験 : 使用済燃料を処理することにより発生する低レベル廃液を用いて、低レベル廃液蒸発缶の処理能力を確認する。
- 使用済燃料受入れ・貯蔵建屋
処理能力確認試験 : 使用済燃料から取り外したチャンネルボックス及びバーナブルポイズンを用いて、第1チャンネルボックス切断装置及び第1バーナブルポイズン切断装置の処理能力を確認する。
- その他（再処理施設全体として行うもの）
線量当量率及び空気中の放射性物質濃度確認試験 : 所定の場所における線量当量率及び空気中の放射性物質濃度の確認を行う。

2. 放射性物質の放出状況（平成18年4月分）

(1) 放射性液体廃棄物の放射性物質の放出量

核種 (測定箇所)	当月の 放出量	当月までの累積放出量					年間放 出管理 目標値
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度	
H - 3 (放出前貯槽)	1.7×10^8 (Bq)	1.7×10^8 (Bq)				1.7×10^8 (Bq)	1.8×10^{16} (Bq)
I - 129 (放出前貯槽)	N D (Bq)	N D (Bq)				N D (Bq)	4.3×10^{10} (Bq)
I - 131 (放出前貯槽)	N D (Bq)	N D (Bq)				N D (Bq)	1.7×10^{11} (Bq)
その他 線を放出する核種 (放出前貯槽)	N D (Bq)	N D (Bq)				N D (Bq)	3.8×10^9 (Bq)
その他 線を放出しない核種 (放出前貯槽)	N D (Bq)	N D (Bq)				N D (Bq)	2.1×10^{11} (Bq)

(2) 放射性気体廃棄物の放射性物質の放出量

核種 (測定箇所)	当月の 放出量	当月までの累積放出量					年間放 出管理 目標値
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度	
K r - 85 (排気口)	1.8×10^{14} (Bq)	1.8×10^{14} (Bq)				1.8×10^{14} (Bq)	3.3×10^{17} (Bq)
H - 3 (排気口)	1.5×10^{11} (Bq)	1.5×10^{11} (Bq)				1.5×10^{11} (Bq)	1.9×10^{15} (Bq)
C - 14 (排気口)	N D (Bq)	N D (Bq)				N D (Bq)	5.2×10^{13} (Bq)
I - 129 (排気口)	1.7×10^6 (Bq)	1.7×10^6 (Bq)				1.7×10^6 (Bq)	1.1×10^{10} (Bq)
I - 131 (排気口)	N D (Bq)	N D (Bq)				N D (Bq)	1.7×10^{10} (Bq)
その他 線を放出する核種 (排気口)	N D (Bq)	N D (Bq)				N D (Bq)	3.3×10^8 (Bq)
その他 線を放出しない核種 (排気口)	N D (Bq)	N D (Bq)				N D (Bq)	9.4×10^{10} (Bq)

(注) N D は、検出限界以下を示す。

3 . 放射性固体廃棄物の保管廃棄量（平成18年4月分）

放射性廃棄物の種類	当月の保管廃棄量	累計保管廃棄量
ガラス固化体	0（本）	0（本）
ハル及びエンドピース	0（本）	0（本）
チャンネルボックス及びバーナブルポイズン	0（本）	0（本）
雑固体廃棄物等	628（本）	10,596（本）
廃樹脂及び廃スラッジ	0(m ³)	4.9(m ³)

（注1）ハル及びエンドピースについては、1,000ℓ容器の本数とする。

（注2）チャンネルボックス及びバーナブルポイズン並びに雑固体廃棄物等の量については、200ℓドラム缶に換算した本数で示す。